

礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所



レプンアツモリソウの研究報告

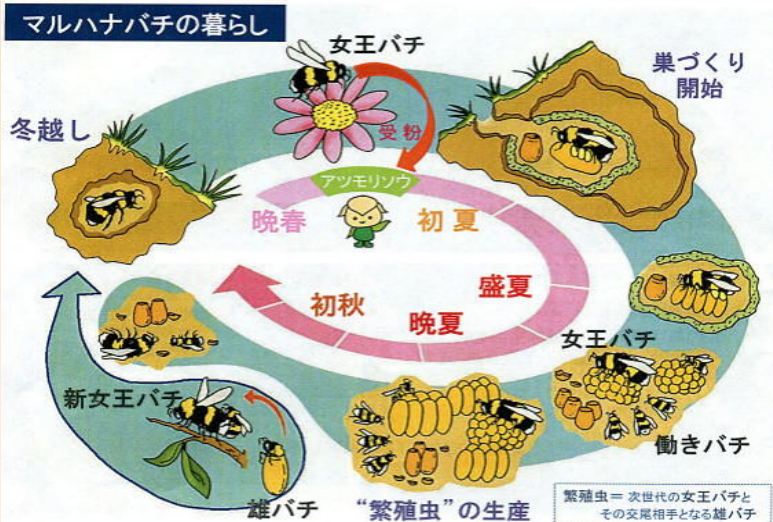


礼文島にしか自生していないレプンアツモリソウは、島民の皆様の財産です。

過去に盗掘されるなど、その数は徐々に減ってきています。このような状況が長く続くと、絶滅につながってしまうかもしれません。そうならないようにレプンアツモリソウの生態を調べ、増殖方法を見つけるために日々研究をしている方達がいいます。その研究成果の中から分かってきたことを紹介していきたいと思ひます。

レプンアツモリソウは、ニセハイイロマルハナバチによって花粉を運んでもらい授粉し、子孫を残しています。逆に言えば、このハチがいなくなると、レプンアツモリソウは自然状態で子孫が残せず増殖ができなくなります。

レプンアツモリソウを増やすためには、ニセハイイロマルハナバチも守っていく必要があります。そのため、その実態を知らなければなりません。



ニセハイイロマルハナバチの暮らしを支える花で、ニセハイイロマルハナバチが好きな花トップ10を紹介します。

ニセハイイロマルハナバチは、特にマメ科の花が好きで、花であれば何でも良いという訳ではありません。季節ごとにいろいろな花を利用し、暮らしを成り立たせています。**ニセハイイロマルハナバチの暮らしを支える花（在来種）を守ることが、レプンアツモリソウを増やすことにもつながります。**

- 1、ヒロハクサフジ
- 2、セイヨウタンポポ
- 3、レプトウヒレン
- 4、アカツメクサ
- 5、ハマエンドウ
- 6、シロツメクサ
- 7、レプンアツモリソウ
- 8、センダイハギ
- 9、ハチジョウナ
- 10、コンフリー



ヒロハクサフジ



レプトウヒレン



センダイハギ

(資料提供 熊本大学大学院 准教授 杉浦直人 氏)